

平成 29 年度 第 2 回 市川市健康都市推進協議会

日時：平成 30 年 2 月 19 日（月）

午後 2 時～3 時 30 分

会場：市川市役所仮本庁舎

第 4 委員会室

次 第

開 会

1 挨拶

2 議 事

- (1) 健康いちかわ 21（第 2 次）について
 - ・健康いちかわ 21 庁内プロジェクト会議（報告）
- (2) 市川市健康都市推進講座について
- (3) 市川市健康都市推進委員会の活動について

3 事務連絡

閉 会

【配付資料】

- 資料 1) 健康いちかわ 21（第 2 次）庁内プロジェクト会議 報告書
- 資料 2) 健康いちかわ 21（第 2 次）連携シート
- 資料 3) 健康いちかわ 21（第 2 次）評価シート
- 資料 4) 第 2 回庁内プロジェクト会議グループワーク議事録
- 資料 5) 市川市健康都市推進講座の実績

健康絵手紙コンテスト

<テーマ>

健康食や運動、趣味、風景、環境、笑顔等、自分が健康と思えること

<部門>

子どもの部・おとなの部

<応募作品>

全234作品



健康フェスタ

日にち：平成29年11月23(木・祝)

場所：市川市文化会館 地下1階 ローブルーム

来場者：164名

実施内容：大麦に関するミニ講演会・タオル体操・

体力測定・健康絵手紙ギャラリー

主催：市川市健康都市推進委員会

共催：認定NPO法人健康都市活動支援機構









ご清聴ありがとうございました

平成 29 年度 健康いちかわ 21（第 2 次）庁内プロジェクト会議 報告書

プロジェクトメンバー構成

保健部	保健医療課、国民健康保険課、健康支援課、疾病予防課
福祉部	福祉政策課、介護福祉課、地域支えあい課
文化スポーツ部	スポーツ課
こども政策部	子育て支援課
学校教育部	保健体育課

	日付	出席 人数	議 事	グループワークテーマ
第 1 回	平成 29 年 6 月 2 日	15 人	(1) 平成 28 年度「健康いちかわ 21」（第 2 次）推進報告 (2) 事業連携への取り組みに ついて ① 事業連携シート説明 ② 平成 28 年度事業連携紹介 ③ 「広報いちかわ」9 月号 特集ページ記事掲載について	① 事業紹介および課題 ・無関心層の視点 ・評価シート活用 ② 事業連携の検討 ・連携シート活用
第 2 回	平成 29 年 9 月 28 日	17 人	(1) 平成 29 年度 第 1 回 健康都市推進協議会会議報告 (2) 各課事業進捗状況の報告 (3) 事業連携の報告 ・「広報いちかわ」9 月 2 日号、特 集ページ記事掲載について関係 課より効果の報告 ・健康マイレージ事業メールマガ ジン配信記事の募集 ・地域支えあい課事業 PR ・ヘルシーパートナーズ事業 PR	健康いちかわ 21（第 2 次）の「栄養・食生 活」に関する課題を一つ選択し、①・②に ついて話し合う。 ① 課題に対して、各課の事業評価シートを 参考にして、どのような対象に、どんな 方法で取り組むことができるか。 ② 課題について、現行の事業にこだわらず、 市内のどこで、どんな取り組みをしたら よいか。
第 3 回	平成 30 年 1 月 26 日	16 人 (2 人)	(1) 各課事業評価の報告 (2) 事業連携の報告 (3) データヘルス計画について (国民健康保険課) (4) 次年度方針説明	

健康いちかわ21（第2次）連携シート

所属部・課・事業名	①他課の事業の周知が可能か否か	②周知が可能な場合周知の方法	③他課での周知を希望するか否か	④周知を希望する場合の媒体	⑤周知を希望する場合希望する部署	H29年度 連携実績		
						(連携)有・無	連携した課	具体的な連携内容
保健部								
保健医療課								
1	健康マイレージ事業	可能	配信	周知を希望する	リーフレット	すべての担当課	有	健康支援課 健康講座来所者リーフレット配布 疾病予防課 特定健診通知封筒印刷 疾病予防課 特定健診指導案内通知にリーフレット送付 国民健康保険課 納税通知書封筒印刷 国民健康保険課 リーフレット窓口設置 スポーツ課 ツーデーマーチ冊子へ広告記事掲載
2	エイズ予防啓発事業	検討中		周知を希望する	チラシ		無	
3	健康都市推進事業	可能	チラシ配布	周知を希望する	チラシ	すべての担当課	有	健康支援課 保健推進員・食生活改善推進員チラシ配布 疾病予防課 特定健診指導者案内通知チラシ配布
健康支援課								
6	◆健康相談事業（母子） ・母子保健相談（アイイ）	可能	チラシ設置	周知を希望する	チラシ・職員より説明	子ども関連担当課 市民課	有	子育て支援課 チラシの配布、ポスター掲示 市民課 チラシの配布、ポスター掲示
7	◆健康教育事業（母子） ・プレ親学級（母親/両親学級） ・依頼による健康教育	可能	チラシ設置	周知を希望しない			有	子育て支援課 子育て支援センターによるハッピーマタニティの周知
7	◆健康教育事業（成人） ・生活習慣病や運動等に関する講座	可能	チラシ配布	周知を希望する	職員による説明	子ども関連担当課	有	子育て支援課 子育て支援センターやこども館への出張相談
8	◆訪問指導事業（母子） ・その他母子訪問	可能	チラシ配布	周知を希望しない			有	子育て支援課 必要時情報共有・同行訪問
10	◆推進員活動事業 ・保健推進員活動 ・食生活改善推進員活動（おとなの食育講習会）	可能	チラシ配布	周知を希望する	職員による説明	子ども関連担当課	有	こども入園課 子育てナビについての研修会を実施 子育て支援課 虐待の現状についての研修会を実施 スポーツ課 スポーツセンターへのちらし設置
10	◆健康教育事業（成人） ・生活習慣病や運動等に関する講座	可能	チラシ配布	周知を希望する	チラシ	すべての担当課	有	保健医療課 健康都市推進員への講座チラシ配布 保健医療課 健康都市推進講座での講座チラシ配布
11	◆自殺予防対策事業 ・「ゲートキーパー」養成講座	チラシ配布	周知を希望する	チラシ	すべての担当課	すべての担当課	有	保健医療課 健康都市推進講座でのちらし配布。健康マイレージメルマガ配信による周知。
11	・うつ心の心配相談	可能	職員より説明	周知を希望する	チラシ・相談カード	すべての担当課	有	救急課・生活支援課・子育て支援課・社会教育課・総合市民相談課・男女共同参画課・図書館など 各課窓口に設置、配布
11	・自死遺族相談	可能	職員より説明	周知を希望する	チラシ	すべての担当課	有	
11	・睡眠講座	可能	チラシ配布	周知を希望する	チラシ	すべての担当課	有	保健医療課 健康都市推進講座での講座チラシ配布
12	◆食育の推進 ・食育講演会	可能	チラシ配布	周知を希望する	チラシ	対象により調整	有	保健医療課 健康都市推進講座でのちらし配布、健康マイレージメールマガジン配信 保健体育課 各小学校1～3年生へのチラシ配布 スポーツ課 スポーツセンターへのちらし設置
疾病予防課								
13	健康診査事業	可能	チラシ設置	検討中	検討中	検討中	有	保健医療課 健康診査受診券の個別通知の封筒に健康マイレージ事業について印刷 健康支援課 健康診査受診券の個別通知に口腔がん検診・歯周疾患検診のチラシを同封 健康支援課 南行徳保健センターで健康手帳配付 健康支援課 南行徳保健センター窓口にチラシを設置 国民健康保険課 保険証の発送の際にチラシを同封 国民健康保険課 窓口にチラシを設置
14	特定保健指導事業	可能	チラシ設置	周知を希望する	チラシ配布	対象により調整	有	保健医療課 健康マイレージのパンフレットを面接来所者へ配布 健康支援課 講座の案内のチラシを保健指導室に設置 国民健康保険課 保険証の発送の際にチラシを同封
17	個別予防接種事業	可能	チラシ配布	周知を希望する	ポスター・ちらし	子ども関連担当課	有	健康支援課 南行徳保健センターで予防接種手帳配付 子育て支援課 イベントで予防接種スケジュールナビのチラシ配布 各小学校 平成30年度新1年生へ就学時健診でチラシ配付
18	結核予防事業	不可能		周知を希望する	ポスター	市役所本庁・公民館	有	市役所本庁舎、公民館に開催日時のポスター貼付
19	急病診療所等運営事業	可能	チラシ設置	周知を希望する	ポスター・ちらし・カード	窓口業務のある課	無	窓口業務のある課 ポスターの貼付、カードの設置
20	急病医療情報案内(あんしんホットダイヤル)事業	不可能		周知を希望する	カード	窓口業務のある課	無	窓口業務のある課 ポスターの貼付、カードの設置
国民健康保険課								
21	エイズ予防の啓発	可能	チラシ設置	周知を希望する	パンフレット	保健医療課	有	保健医療課 世界エイズデーの啓発活動で国提供のパンフレットを配布 疾病予防課 レッドリボンダンスキャンペーンで国提供のパンフレットを配布
22	データヘルス計画	不可能		周知を希望する	検討中	検討中	有	疾病予防課 特定健診受診勧奨ハガキを送付 疾病予防課 糖尿病性腎症重症化予防事業の実施
文化スポーツ部								
スポーツ課								
26	スポーツ推進事業（下総・江戸川ツーデーマーチ）	可能	チラシ配布	検討中	チラシ	対象により調整	有	保健医療課 ツーデーマーチ冊子へ広告記事掲載
福祉部								
地域支えあい課								
30	認知症総合支援事業	可能	チラシ配布	周知を希望する	チラシ	対象により調整	有	保健医療課 認知症講演会のチラシ配布
31	在宅医療・介護連携推進事業	可能	チラシ配布	周知を希望する	チラシ	対象により調整	有	保健医療課 シルバーライフデザインフェスタのチラシ配布
こども部								
子育て支援課								
32	子ども家庭総合支援センター						有	健康支援課 市川市民のテレホンガイド設置
学校教育部								
保健体育課								
34	ヘルシースクール推進事業	不可能		周知を希望しない			無	
35	食育推進事業	不可能		その他			有	健康支援課 健康支援課の依頼を受け、市民まつりでの展示物を、食育講演会で再展示する。

※37事業のうち、主な事業を一部抜粋

健康いちかわ21（第2次） 評価シート

部・所管課・事業名称	事業目的および目標(H29)	事業概要	対象	分野							①課題	②視点	「課題」に対する具体的な取り組み						
				栄養・食生活	身体運動・活動	心の健康	飲酒	喫煙	歯・口腔の健康	健診・がん検診			感染症対策	事業の実施方法	事業の実施内容	事業の実施効果	改善方法		
																		①	②
			①乳幼児期(0～5歳) ②少年期(6～15歳) ③青年期(16～29歳) ④壮年期(30～44歳) ⑤中年期(45～64歳) ⑥高齢期(65歳以上)																
保健部																			
保健医療課																			
1	健康マイレージ事業	目的:若年層から高齢者まで幅広い世代の方が、健康的な生活を送るための意識の向上を支援することで、健康寿命を延伸する。 H29目標:若年層へのアプローチを行うことで、登録者数増をはかる。	WEBシステムを使った市民の健康づくりを応援するサービスとして、パソコンや携帯電話などを使って日々の運動や食事などの健康に関する目標を設定し、市民が楽しく健康づくりに取り組める動機づけを行い市民の健康のサポートを行っている。 項目:運動、食事、休養、歯、体重測定	20歳以上市民															
6	健康相談事業 (母子) ・母子保健相談窓口(アイティ) ・育児相談、発達相談等の来所による個別相談 ・4か月赤ちゃん講座 ・電話面接による個別相談	母子) 目的:妊産期から乳幼児期の母子に対し、相談・支援を行うことで、心身の健康・栄養・歯科に関する不安を軽減すると共に、児童虐待の防止を図る。 H29目標:母子保健相談窓口の充実を図ることで、児童虐待の防止を図る。	母子) ・専門職による母子健康手帳交付及び面接相談により妊産期から乳幼児期までの継続した支援を行う。 ・母子保健相談窓口(アイティ)の開設および母子保健相談事業の実施をとおし、母子の育児不安を軽減する。	全市民															
9	健康診査事業 (成人) ・歯周疾患検診 ・二十歳の歯科健診 ・口腔がん検診	成人) 目的:歯や口腔内の健康を保つことで生活習慣の改善につなげる。 H29目標:健診の目的を伝えることで、受診の必要性を理解してもらい、受診者を増やす。	歯科に関する健康診査を実施する。	対象年齢に該当する成人															
12	食育の推進	目的:妊婦、乳幼児から高齢者に至るまでの生涯を通じた食育の推進に寄与する。 H29目標:第二次市川市食育推進基本計画の評価、第三次市川市食育推進基本計画の策定。	食育基本法第18条による市町村計画である「市川市食育推進計画」に基づき、市川市の総合的かつ効果的な食育を推進する。	全市民															
疾病予防課																			
13	健康診査事業	目的:生活習慣病の早期発見・早期治療に資するとともに、生活習慣の改善を図り、糖尿病等の生活習慣病を予防する。 H29目標:受診率の向上	「高齢者の医療の確保に関する法律」及び「健康増進法」に基づき、糖尿病等の生活習慣病の発症や重症化を予防するため、特定健康診査(準ずる健康診査)を実施する。	40～74歳国保加入者。 千葉県後期高齢者医療保険加入者 生活保護受給中の40歳以上の市民(特定健康診査、準ずる健診)															
14	特定保健指導事業	目的:特定健康診査の結果により、内臓脂肪症候群に着目し、生活習慣病の発症リスクの高い方に向け、保健指導を行うことで、糖尿病等の生活習慣病の発症や重症化の予防につなげる。 H29目標:実施率の向上	「高齢者の医療の確保に関する法律」に基づき策定された、「市川市特定健康診査等実施計画」のもと、特定健康診査の結果から対象者となった方に特定保健指導を実施する。	40～74歳の国保加入者															
17	個別予防接種事業	目的:感染症から市民を守るため予防接種を行い、感染症の発生及びまん延を防止し、公衆衛生の向上に寄与することを目的とする。 H29目標:予防接種制度の周知内容について充実を図る。	定期予防接種(ヒブ、小児用肺炎球菌、B型肝炎、4種混合、ポリオ、BCG、麻しん風しん混合、水痘、日本脳炎、二種混合、子宮頸がん、高齢者インフルエンザ、高齢者肺炎球菌)、任意予防接種(おたふくかぜ、高齢者肺炎球菌(65歳以上の定期接種対象外で未接種の方))の実施	0～20歳未満 60～64歳の一部及び65歳以上															
国民健康保険課																			
22	データヘルス計画	目的:健康・医療情報を活用してPDCAサイクルに沿った効果的かつ効率的な保健事業の実施を図る。 H29目標:①40歳代の受診率の1%増加②受診勧奨対象者への受診勧奨100%など。	①特定健診受診率向上のための取り組み ②糖尿病性腎症重症化予防のための取り組みを実施する。	40歳以上の国民健康保険被保険者															

部・所管課・事業名称	事業目的および目標(H29)	事業概要	対象	分野							①課題	②視点	「課題」に対する具体的な取り組み								
				①乳幼児期(0~5歳) ②少年期(6~15歳) ③青年期(16~29歳) ④壮年期(30~44歳) ⑤中年期(45~64歳) ⑥高齢期(65歳以上)	栄養・食生活	身体運動・活動	心の健康	飲酒	喫煙	歯・口腔の健康			がん検診	感染症対策	各分野の課題から該当するものを選択	①における「健康無関心層」	事業の実施方法	事業の実施内容	事業の実施効果	改善方法	
																	P	D	C	A	
福祉部																					
介護福祉課																					
28	地域包括支援センター事業	目的:高齢者が住み慣れた地域で安心して生活できるよう、相談等の支援を行う。 H29目標:支援者の研修等を行い、支援技術の向上を図る。	高齢者の心身の健康維持、安心した暮らしを地域ぐるみで支えていくための拠点として、総合相談事業、権利擁護事業、包括的・継続的ケアマネジメント支援等を実施。	65歳以上の高齢者	⑥	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	各分野の課題に該当(健診・感染症対策以外)	健康づくりに関心がない、経済的に余裕がない、介護等で時間がない高齢者	高齢者サポートセンター・ケアマネジャーとの会議や研修を通じて関心が高まるよう働きかける。窓口業務等では家族や本人に意識を持ってもらうようにする。各家庭の問題へ支援する。	高齢者サポートセンターの後方支援を行ってきた。健康無関心層に関しても、個々の問題を把握し、様々な機関と連携を図り、対応してきた。	高齢者サポートセンター・ケアマネジャーとともに庁内機関だけでなく、庁外機関、地域住民等、個々の問題に応じて、関係機関と連携を図った上で、支援を行うことができた。	個々の支援を通して、既存のサービスを提供するだけでなく、地域に必要なサービスの構築につながる事が求められている。
地域支えあい課																					
30	認知症総合支援事業	目的:認知症になっても本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で暮らし続けることができる社会を実現する。 H29目標:認知症の早期診断、早期対応に向けた支援を行うとともに、地域住民の認知症に対する理解促進を図ることにより、認知症になっても地域で質の高い生活を送れる地域づくりを推進する。	認知症の方の早期診断・早期対応に向けた支援体制を構築する。「認知症初期集中支援チーム」のチーム員が、認知症が疑われる人、認知症の人とその家族を訪問し、認知症の専門医による鑑別診断等をふまえて、観察・評価を行い、本人や家族支援などの初期の支援を包括的・集中的に行い、自立生活のサポートを行う。	40歳以上で、在宅で生活、認知症が疑われるまたは認知症がある以下のいずれかの基準に該当する人 1.医療サービス、介護サービスを受けていない人、または中断している人で以下のいずれかに該当する。①認知症疾患の臨床診断を受けていない②継続的な医療サービスを受けていない③適切な介護保険サービスに結びついていない④診断されたが介護サービスが中断している 2.医療サービス、介護サービスを受けているが、認知症の行動・心理症状が顕著なため、対応に苦慮している	⑤ ⑥	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	各分野全ての課題に該当	認知症に対する知識や関心のない市民	認知症に関心のない市民にも興味・関心を持ってもらえるよう、認知症に関する普及啓発も進めていく。	11月15日に認知症に関する講演会を実施した。その際、広報、HP、デジタルサイネージ、駅でのポスター掲示等により幅広く周知を図った。また、講演会にあわせ、認知症に関心を持ってもらうことを目的とした普及啓発チラシを作成し、配布した。広報いちかわ2月3日号で認知症を特集し、市民への周知啓発を行う。	講演会の開催にあたり多様な方法での幅広い周知を行い、192人の参加があった。アンケート回答者145人中、家族や身近な人の中に認知症の人がいないと応えたのは89人であった。このことから、新たに興味関心を持って参加した、これまで認知症に対する知識や関心のない市民も参加していた可能性があると考えられる。	今後も認知症に関心ない市民にも情報を届けられるような機会・方法を広げられるよう工夫し、それを通じて認知症に関する普及啓発を進めていく。
こども部																					
子育て支援課																					
32	子ども家庭総合支援センター	目的:子どもと子育て中の家庭の保健・福祉・教育等に関する悩みなど、子どもに関わるさまざまな問い合わせや悩みの相談に応じるとともに、市が提供するサービスを適切に受けられるように総合的にアドバイスし、必要に応じて関係機関と連携して適切な支援を実施する。 H29目標:適切な支援の継続。	子どもの生活習慣や養育に関する心配ごとなど子どものことであればなんでも相談を受け、子どもと子育て家庭を総合的に支援していく。	妊娠期~18歳までの子ども・保護者など	① ② ③ ④ ⑤	○										相談場所を周知していく必要がある。	一人で悩みをかかえる市民	子どもや子育てに関する講座の開催や、啓発イベントの開催により相談場所の周知	子どもや子育てに関する講演会を実施。広報、HP、自治会掲示等により参加周知を図り、参加者へ相談窓口の周知を行った。	子育てに関する講演会を実施。定員を大幅に超える集客があり、子育て相談窓口の周知ができた。	講演会では定員を超える申込みがあったため、今後は会場の変更等、より多くの方に参加いただき、相談窓口の周知を行っていく。
学校教育部																					
保健体育課																					
34	ヘルシースクール推進事業	目的:健康について自ら考え、行動し、改善できる子どもの育成。 H29目標:ヘルシースクールプランが有効活用できるよう、各学校に啓発を行っていく。	「食生活の乱れ」「体力・運動能力の低下」「生活習慣病の低年齢化」等、現代の子どもたちが抱える多くの健康課題の改善を図るため取り組みを行う。	小学生、中学生	②	○	○									開始して12年が過ぎ、形骸化してきている状況がある。	学校行事等に参加できない家庭。	児童生徒の自発的な活動を増やし、家庭に伝えていく。	限られた予算の中で、新たな視点は難しい状況にあるが、研修会及び学校訪問等の際に活動事例をするなど各校の取組を後押しする。	他校のヘルシースクールプランを参考に学び合う機会を設けることで、各校がさらにより良い実効性のあるプランを立てていけるようにした。	研修会及び学校訪問等でヘルシースクールプランを取り上げ、家庭・地域との連携についてさらに啓発を図っていく。

※37事業のうち、主な事業を一部抜粋

平成 29 年度 第 2 回庁内プロジェクト会議グループワーク議事録

【テーマ】健康いちかわ 21（第 2 次）の「栄養・食生活」に関する課題の中からテーマを一つ選択し、①・②について話し合う。

- ① 課題に対して、各課の事業評価シートを参考にして、どのような対象に、どのような方法で取り組むことができるか。
 ② 課題について、現行の事業にこだわらず、市内のどこで、どのような取り組みをしたらよいか。

【A グループ】

課 題：男性は 30 代から、女性は 40 代から肥満の割合が増加する。	
①	<p>○ 自ら行政主催の講座に行こうとしない、また、広報を見ることはない。 （子供と図書館などの施設に行った際に見ることはある。）</p> <p>⇒ <u>働き盛りの世代は、子育てに関する施設で情報をキャッチすることが多いと思う</u>ので、そのような施設にチラシ等を置く。</p> <p>⇒ 若い世代の方が来る場所に、<u>こちらから出向いてチラシを配布する</u>などの周知をする。（市民まつり等）</p>
②	<p>○ 健康に関する情報がありすぎて混乱してしまう。 ⇒ <u>市として、何か一つをアピール</u>する。 （市民が健康づくりに取り組むのに何からやればいいのかわかりやすくなる。）</p> <p>○ スポーツジムについている TV を使って情報発信をする。</p> <p>○ 居酒屋でのお通しは必ず「野菜」を使ったものにする。</p> <p>○ スーパーで野菜量の目安を記載したレシピを作成して紹介する。（必要な野菜量が目に見えてわかる。）</p>

【B グループ】

課 題：意識して野菜を摂る人の割合が低い	
①	<p>○ 無関心層に取り組むためには <u>子供からのアプローチ</u>が必要。</p> <p>（子供からアプローチすることで、親世代へ働きかけることができる。 子供のころから生活習慣を替えていくことが必要だから。 子供が親世代になった時に、その子供たちにも親から意識づけができる。）</p> <p>⇒ 8・3 のつく日は「野菜の日」と設定し、給食のメニューの野菜量を通常より多くする。（自然と野菜を食べさせる。）</p> <p>⇒ 子供に「野菜を食べようキャンペーン」のポスターコンテストを実施し、ポスターを地域の飲食店やスーパーに掲示してもらう。</p> <p>コンテスト入賞者には景品として野菜が贈れるといい。 （親へも興味を持たせる。子供自身へも意欲を持たせることができる。）</p> <p>⇒ 野菜を食べやすくなるよう、メニューの工夫をするため、<u>「野菜レシピコンテスト」を実施</u>し、そのレシピを紹介する。</p>
②	<p>○ <u>企業を巻き込んで PR することが有効ではないか。</u></p> <p>○ 「野菜を食べよう」を市内の全施設にポスター掲示をし、どこに行ってもそのフレーズが <u>無意識に目に入るよう</u>にする。 （刷り込み効果）</p> <p>○ ポスターには旬の野菜の写真を定期的に入れ替え、その際、市内店舗にその旬の野菜を割引して販売してもらう。</p> <p>○ 高速道路上の通過地点の看板や路面上表示として、「野菜を食べよう」のポスターなどを掲示する。</p>

【C グループ】

課 題：男性 20 代～40 代、女性 20 代の 2～3 割が朝食を欠食している。	
①	<p>○ 若い時に習慣化してしまい、大人になっても変わらないという人が多いのではないか。</p> <p>⇒ <u>子供のころからのアプローチ・学校との連携</u>が必要。</p> <p>⇒ 学校教育の場で調査を行い、朝食欠食の実態を把握し、状況に合わせた啓発をする。</p>
②	<p>○ <u>民間企業等ですでに実践していることを参考</u>にする。</p> <p>⇒ AM8：00 までに出社すると朝食代が無料（朝方勤務奨励のため）</p> <p>⇒ 大学の学食で朝食を 100 円で提供。</p>

市 川 市 健 康 都 市 推 進 講 座 の 実 績

1. 講座開催の目的

和洋女子大学の協力により（包括協定）平成 17 年度から健康都市の考え方を広く市民に周知するとともに、健康に興味を持ち、自身の健康づくりや家族の健康づくりを積極的に行う市民を増やすことを目的に開催している。

平成 28 年度からは、「健康いちかわ 21（第 2 次）」の推進について、広く市民に周知していくことを目的に開催している。

2. 3 カ年の講座内容

平成 27 年度（全 9 回）テーマ：『健康にそして美しく』	
健康都市いちかわ実現に向けて	
美しい千葉の伝統郷土料理「祭りずし」	
足元から美しく一足と靴と健康—	
甘いものを食べたい時のお手軽ヘルシーお菓子	
あなたに似合う色をさがしましょう	
見た目の美しさを保つには？— 美容皮膚科学の進歩 —	
「お手軽健康情報」を読むために—「食べたこと」は無かったことにしたいけれど	
老いない身体の作り方—筋トレと有酸素運動の理論と実践	
美しく健康になるために今日からできること	
平成 28 年度（全 7 回）テーマ：『誰もが健康なまちづくりをめざして』	
健康いちかわ 21（第 2 次）— 誰もが健康なまちづくりをめざして —	
食塩摂取量を計算してみよう	
野菜や果物の摂取は血圧を下げる！？	
健康長寿と食べる力・かむ力	
毎日のセルフケアで心の元気度アップ！	
不活動時間を短くしよう	
誰もが健康になるために私たちにできること	
平成 29 年度（全 7 回）テーマ：『自分の心と体を見直そう』	
健康都市いちかわの実現に向けて～「誰もが健康なまち」づくり～	
咀嚼と健康	
生活習慣病予防のための食事	
運動を日常生活に	
ストレスと健康	
くらしと笑顔が健康を招く～住みやすい住環境～	
誰もが健康になるために私たちにできること	

3. 3 カ年の講座実績

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
受講者数	72 名	85 名	67 名
修了者数	33 名	33 名	42 名
推進員委嘱者数	6 名	1 名	2 名